

現代における銭湯像の考察

—空間デザインとコミュニティの視点から—

建築学専攻
プロジェクトデザイン研究

DZ20133 おおき こた 大木 鼓太
指導教員 岡野 道子

序章 はじめに

0-1 研究背景

日本において、厚生労働省が一般公衆浴場として定義する銭湯の数は年々減少している。一方で、スーパー銭湯など「その他の公衆浴場」に分類される温浴施設を含めた公衆浴場全体の総数は大きくは変化していない。この背景には、かつて銭湯が地域社会において担っていた機能が、内風呂の普及やデイサービス、大型温浴施設といった新たな場へと代替・移行している状況がある。そうした銭湯の衰退傾向とは対照的に、銭湯の文化的・歴史的価値を評価し、その継承の重要性を指摘する論考も多い。近年は特に、銭湯が有するサードプレイスとしての機能や、新たなコミュニティ形成の場としての可能性に注目が集まっている。待合スペースの拡充や、隣接するコミュニティスペースの整備、サービス提供の多様化など、改修や移転、建て替えを伴う近年の実践には、コミュニティ形成を志向する動きが顕著であり、銭湯が現代社会に適応した新たな公共空間として再定義されつつあることを示唆している。

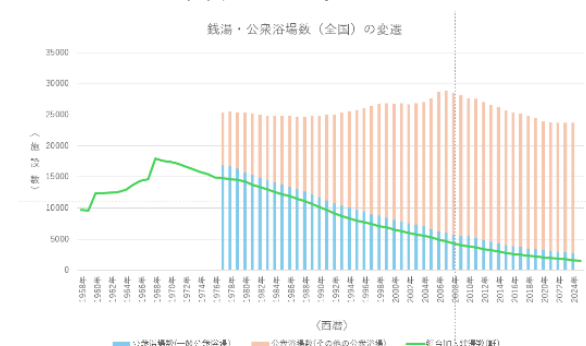


図1 銭湯(青)とその他の公衆浴場(橙)数の変遷

0-2 研究目的

本研究は、近年の銭湯改修及び建て替え、移転に着目し、その空間及び地域社会的役割の変容に、現代社会及び現代人の銭湯に対する需要や価値観といった現代の銭湯像が関係していることを明らかにし、その現代における銭湯像の実態について考察をすることを目的とする。

0-3 本論の構成

本論は、文献・統計調査、都市スケールでの空間分析、建築スケールでの設計手法分析、設計的考察の四段階から構成される。第1章では、文献調査および既存統計資料を用いて、本研究が対象とする銭湯およびその改修(一部建て替え及び移転を含む)の全体像を整理し、銭湯を「修繕型銭湯」と「改修型銭湯」に区分を行うことで、本研究における分析の枠組みを確立する。第2章では、コミュニティの射程に基づく「改修型銭湯」の類型化を行い、背景情報を整理するため、地理情報分析に基づく都市スケールでの検討を行う。類型ごとの立地特性や都市構造との関係性を検証するための基礎条件を整える。第3章では、改修型銭湯の中からその改修要点が確認できる事例を対象として、図面資料、写真、現地観察に基

づく建築スケールでの空間分析を行い、近年の銭湯改修にみられる改修設計手法を読み解く。また、類型間の比較分析を通じて、戦後に成立した典型的な東京型銭湯から現代の改修型銭湯に至るまでの銭湯像の変遷を捉え、現代銭湯改修に共通する設計上の論点を抽出し、設計指針として言語化する。第4章では、第1章から第3章から得られた知見を統合し、設計提案の行うことで、現代都市における銭湯空間の新たな可能性と今後の展望を示す。

0-4 既往研究と本研究の位置づけ

本研究と関連するテーマとして、銭湯の立地特性・空間構成、都市との関係性、生活文化資源としての継承、ならびにコミュニティやサードプレイスとしての機能に関する議論が蓄積されていることを整理する。これらに対して、本研究は、東京都の銭湯における2010年以降の中・大規模改修の有無と内容に基づく新たな類型化を行い、空間デザインとコミュニティ機能を結びつけて分析する点に独自性がある。すなわち、既往研究が主に「従来の銭湯」や「公衆浴場一般」の機能・役割を論じてきたのに対し、本研究は、改修を契機として生まれる現代的な銭湯像に注目し、空間構成の変容と地域コミュニティの再編との関係を具体的な設計手法のレベルで明らかにしようとするものである。

第1章 銭湯の概要

1-1 本論における銭湯の定義

本論では、公衆浴場法の枠組みに依拠し、一般公衆浴場を「銭湯」として定義する。温泉旅館の浴場や健康ランド、スーパー銭湯等のその他の公衆浴場は原則として対象外とすることで、生活インフラとしての銭湯に焦点を絞る。

1-2 入浴空間及び銭湯の歴史

入浴空間および銭湯の歴史を、6世紀の施浴の伝来から現代に至るまで段階的に区分し、各時代の社会情勢のもとでの位置づけと変容を整理した結果、今後の社会状況や価値観の変化が銭湯の役割や形態に多大な影響を及ぼしうることが確認された。

1-3 銭湯の空間構造と運営

本節では、銭湯の空間形態について、井上啓夢による銭湯設計論で提示された枠組みに依拠しつつも、その説明内容を本論の目的に即して再構成し、脱衣所や番台といった銭湯空間を構成する要素ごとに、その役割を整理した。男女の動線分離、フロントと洗い場の配置、採光や意匠デザインの計画といった空間的要素が、利用者の滞在行動やコミュニティ形成のあり方と密接に結びついてきたことが確認できる。一方で、家族経営から第三者経営への移行といった運営モデルは、エネルギーコストの変動や利用者構成の変化を背景に多様化しており、休憩スペースの整備や物販・イベントの導入などのサービス拡張を通じて、地域に対してより開かれた場としての新たな公共性の獲得に寄与していると考えられる。

1-4 東京都における銭湯改修の実態

東京都浴場組合が公開する「東京銭湯マップ」に掲載

された都内 415 軒を対象とし、公式ウェブサイトや報道記事、SNS 等から所在地、営業時間、創業年代、改修の有無とその時期、備考を収集し、Excel 上で属性データとして整理した。そのうえで、1990 年以降に一定規模の改修、建て替え、移転が確認できる銭湯を「改修型銭湯」、それ以外を日常的な修繕にとどまる「修繕型銭湯」と定義した。

第 2 章 改修型銭湯の背景情報分析

2-1 コミュニティの射程に基づく改修型銭湯の類型化

2010 年以降に改修が確認された 149 軒の改修型銭湯を対象に、近年の改修動向を把握するための類型化を行う。改修内容は、外装と待合・休憩スペースの二軸から整理し、その組み合わせによって志向されるコミュニティ像を検討する。本論における「コミュニティの射程」とは、滞在や交流の深さと、来訪者をどの範囲から呼び込むかという空間的広がりという時間的・関係的側面から、改修後の銭湯が形成しうるコミュニティの届き方を捉える概念である。待合・休憩スペース改修スコア(1~3)と、外装改修スコア(1~3)を設定し、その組み合わせによって各施設を位置づけた。(3,1)(3,2)の二つの類型は該当銭湯が確認できず、「常連維持型(1,1)」39 軒、「近隣開放型(1,2)」40 軒、「広域呼び込み型(1,3)」13 軒、「内部充実型(2,1)」3 軒、「近隣拠点型(2,2)」17 軒、「広域拠点型(2,3)」27 軒、「発信拠点型(3,3)」10 軒という結果が得られた。

2-2 銭湯改修における建築家・銭湯再興団体の参入

町田忍は『銭湯』(2016)において、従来は専門業者が標準的なプランで設計していた浴場に、大手建設会社や一般の設計事務所が参入し、意匠的にも運営的にも個性の強い銭湯が生まれていることを指摘している。こうした変化は、本論でいう「改修型銭湯」の多くが、単なる老朽化対策としての改修ではなく、建築家や再興団体との協働を通じて、空間構成とコミュニティ機能の両方を再設計するプロセスとして進められていることを示唆している。

2-3 Arc GIS を用いた改修型銭湯の類型別空間分布分析

修繕型銭湯と改修型銭湯をそれぞれ ArcGIS (地理情報システム) 上にプロットし、その空間分布の違いを概観した後、2-1 で分類に用いた待合・休憩スペース改修スコアと外装スコア別にプロットし、類型ごとの立地傾向とその特徴を検討する。

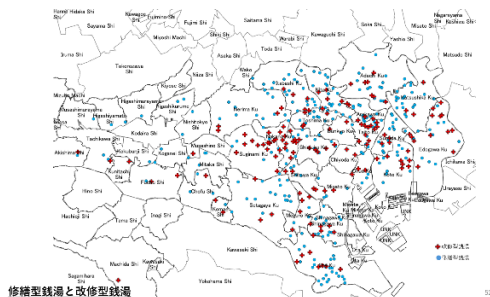


図 2 修繕型銭湯と改修型銭湯の分布

第 3 章 改修型銭湯の設計手法

3-1 改修型銭湯の事例別空間分析

改修型銭湯の中からその改修要点が確認できる事例を対象として、図面・写真・現地観察等に基づく空間分析を通じて、改修設計手法を読み解く。分析調査に際して、データシートを作成し、銭湯の概要、特徴、改修の要点と 2 章で整理した類型及び該当銭湯の周辺環境データをまとめる。

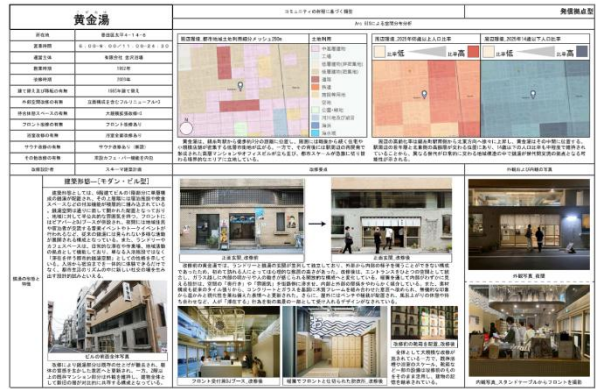


図 3 事例別データシート

3-2 各空間構成要素の改修手法の要点整理

各事例を相対的に俯瞰し、1-3 で整理した銭湯の空間構成要素ごとにその改修要点の整理及び考察を行う。

3-3 比較分析を通じた銭湯像の変遷の把握

各事例を形態、類型の軸から比較することで、銭湯改修に際して反映される現代における銭湯像が過去の銭湯像とどのように変化しているのか、変化していない部分はあるのかなど、その変遷を把握する。

3-4 現代銭湯改修に向けた設計指針の提示

本節では、これまでの調査および分析によって明らかになった知見を踏まえ、今後の銭湯改修に向けた設計指針を提示する。前提として、銭湯の改修設計においては、経営者の意向を尊重することが重要である。銭湯は他の公共施設と異なり、運営者ごとの価値観や地域性が空間に強く反映されてきた背景をもち、そのことが画一化されない多様な改修事例を成立させてきた。したがって、本論が提示する設計指針は、特定の設計手法の正否を示すものではない。むしろ、現代の銭湯像を空間デザインに反映させる際に重要となる要点を整理し、今後の社会環境や地域社会における役割の変化に柔軟に対応するための視座として提示するものである。設計指針として①素材の扱い、②模様・装飾・グラフィックデザイン、③灯り(採光、照明)の扱い、④配置計画(什器、動線、ゾーニング)、⑤外観・街区との関係性、⑥経営・プログラムとの連動の 6 項目を設定し、指針を示す。

第 4 章 設計提案

本章では、修繕型銭湯を改修型銭湯へと転換することを目的とした設計の試みを示す。2-3 で行った類型別空間分布調査から、今後とくに改修需要の高まりが予測されるエリアとして、修繕型銭湯群と改修型銭湯群の境界域に位置し、周辺開発の影響が段階的に波及していくと考えられる墨田区北部を抽出した。この地域において、既存の修繕型銭湯の中でも、建物形態や運営形態に独自の特性を有し、かつ周辺の再開発動向との連関が期待される「おかめ湯」をケーススタディとして選定し、その建て替えを通じて、修繕型銭湯を地域文脈に一層開かれた改修型銭湯へ更新するための空間的・プログラムのモデルを提示する。

参考文献

- (1)「公衆浴場研究の動向と課題」(藤島 人時/2023)
- (2)「立地場所と営業形態からみた東京 23 区における銭湯の特性」(西橋 乃理子 葉袋 奈美子/2020)
- (3)「生活文化資源としての銭湯継承とレクリエーションを含む新規需要獲得の取り組み」(石井 萌美 川原 晋/2021)
- (4)「銭湯」(町田 忍/2016)
- (5)「銭湯の歴史」(中野 栄三/1970)
- (6)「銭湯設計論」(井上 啓夢/2024)